

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|---------------------|------------|-----------|
| 事業所番号 | 0190201574 | | |
| 法人名 | 株式会社 フロンティア | | |
| 事業所名 | グループホームウェルスタイル拓北 1階 | | |
| 所在地 | 札幌市北区拓北8条3丁目1-8 | | |
| 自己評価作成日 | 令和3年3月8日 | 評価結果市町村受理日 | 令和3年3月30日 |

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

| | |
|-------------|---|
| 基本情報リンク先URL | https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigvogyoCd=0190201574-00&ServiceCd=320&Type=search |
|-------------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|-----------------------|--|--|
| 評価機関名 | 株式会社 サンシャイン | | |
| 所在地 | 札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F | | |
| 訪問調査日 | 令和3年3月8日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

| |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> * 職員のスキルを活用したレク活動を各々が実施できている。 「はり絵・エコクラフト・折り紙・ハンドベル演奏・手作りおやつ」 * 利用者の身体状況に応じた福祉用具を随時利用する為、福祉事業所との連携がある。 * 眠りSCANの利用にて安眠を妨げない排湿誘導が行えている。 |
|--|

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

| |
|---|
| <p>「グループホームウェルスタイル拓北」は、JR拓北駅から徒歩で7分程の閑静な住宅地に立地している開設3年目の事業所である。近隣には同法人のサービス付き高齢者向け住宅もあり、感染症の流行前は夏祭りなどで交流を行っていた。居間や食堂は大きな窓から光が注ぐ明るく開放感のある造りで、共用空間は清掃が行き届いている。居間の壁には利用者と一緒に制作した季節の装飾が施されており、家庭的な温もりが感じられる。感染症対策として、光触媒を使った空気清浄機を設置して過ごしやすい住環境の整備にも積極的に取り組んでいる。今年度新たに就任した管理者を中心に、全職員で利用者一人ひとりの思いや意向に寄り添い、本人が一番楽しめるレクリエーションを考えて毎日提供するなど、個別対応にも熱心に取り組んでいる。職員意見の反映では、常にフロアーリーダーや計画作成担当者が各職員の意見や提案を聞き取り、管理者と相談しながらケアや運営に反映させて働きやすい職場環境を整備している。入浴支援面では、一人ひとりの入浴ごとに浴槽消毒をして本人の好みの入浴剤を入れて気持ちよく入浴が楽しめるように配慮している。管理者や職員が明るい笑顔で優しく話かける姿に利用者の表情もほころんでおり、家庭的で落ち着いた雰囲気のグループホームである。</p> |
|---|

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | <ul style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | <ul style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | <ul style="list-style-type: none"> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | <ul style="list-style-type: none"> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | <ul style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | <ul style="list-style-type: none"> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | <ul style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ | <ul style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | <ul style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | <ul style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31) | ○ | <ul style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | <ul style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ | <ul style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価及び外部評価結果

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価(1階) | 外部評価(事業所全体) | |
|-------------------|------|--|--|---|--|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I.理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | 1 | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 「人と心を大切にする」の理念にもとずき、利用者の思いに寄り添い、職員の連携にて柔軟に対応。問題解決していける関係性ができている。 | 企業理念を事業所の理念として捉え、毎年ユニット目標を作成して職員採用時に説明している。各職員は事務所の掲示を見ながら理解を深めているが、全職員で再確認する機会は少ない。地域密着型サービスを踏まえた理念作成も検討している。 | 企業理念を基に職員間で話し合い、地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を作成し、定期的に全職員で確認するよう期待したい。 |
| 2 | 2 | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | コロナ対策で散歩時は短時間で実施。近隣住人への挨拶等を行えている。季節ごとのイベントは、コロナ対策の為、屋内で間隔を空け短時間で行う。地域との交流は当然禁止となる。 | 感染症の流行前は、地域の夏祭りに参加して出店を楽しんだり、近くの喫茶店や商店に買い物に出かけていた。職員の子供と触れ合う機会もあり、同法人運営の施設と合同で夏祭りも開催していた。感染症収束後の再開を考えている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | コロナ対策で、近隣住人とのイベントは、コロナ対策の為、禁止。行事はグループホーム単独で行い、当面は地域交流が望めない。 | | |
| 4 | 3 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | コロナ禍以前は、運営推進会議には毎回10名以上の家族が参加され、活発に意見交換が行っていた。現在は開催を取り止め、活動内容等の報告を書面にてお知らせしている。 | 感染症の流行前は、地域包括支援センター職員や7～8名の家族が参加して事業所からの報告を中心に開催し、現在は書面による会議としている。家族から質問などは寄せられているが、地域住民の参加は得られていない。 | 地域住民にも役立つ情報など、テーマを記載した会議案内を町内会役員に持参し、今後も継続的に会議への出席を依頼するよう期待したい。また、書面会議も資料を添付して情報提供するなどの工夫を期待したい。 |
| 5 | 4 | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | コロナ禍以前は、運営推進会議には毎回10名以上の家族が参加され、活発に意見交換が行っていた。現在は開催を取り止め、活動内容等の報告を書面にてお知らせしている。 | 感染症の流行のため、役所への書類提出は郵送やファックスで行っている。保護課の職員とは介護計画作成時や受診時などに連絡を取り連携を深めている。服薬対応について相談したこともある。 | |
| 6 | 5 | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 研修を定期的に行い身体拘束にあたる行為の理解を深め自らの行っている介助が適格であるかを振り返る様に努める。毎月の会議で活発に職員間の意見交換を行えている。 | 禁止の対象となる具体的な行為を記載した虐待防止マニュアルを整備し、年2回勉強会を実施している。職員も参加し、3か月ごとに身体拘束廃止委員会を実施している。玄関は日中も施錠しているが、利用者が出かけようとした時は職員が同行し、安全面に配慮しながら自由な外出を支援している。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 委員会・研修を定期的に行い、自身の支援内容を見直す機会を持つ。職員間の連携にて建設的な意見を述べる事ができる職場環境を全員参加で維持出来ている。 | | |

グループホームウェルスタイル拓北

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価(1階) | 外部評価(事業所全体) | |
|------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 成年後見を必要とする利用者はまだいない為、学ぶ機会はまだない。権利擁護に関しては研修を行っている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約にあたっては丁寧に説明を行い、ご理解・納得のうえ署名頂いている。 | | |
| 10 | 6 | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 利用者の要望等は随時に聴取し可能な事は計画している。運営推進会議にて家族要望を外部者へも知って頂き業務運営に反映させている。契約書に苦情窓口を明記している。 | 電話や来訪時に利用者の様子を伝え、家族の意見や要望を聞き取り管理日誌や支援経過に記入している。毎月、写真入りの通信を発行している。支援経過の家族意見や要望に職員の気付きなども追記し、分かりやすく整理したいと考えている。 | |
| 11 | 7 | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | コロナ禍の為、毎月の全体会議はユニット毎に個別に開催。少人数で間隔空け・短時間にて職員負担の聴取を行い業務改善できるよう取組んでいる。 | 各ユニットのフロアリーダーや計画作成担当者が、普段から職員の意見や提案を聞き取っている。調理時間の工夫など、ケアや業務改善に職員の提案が活かされている。管理者と職員の個人面談も今後予定している。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | ケアマネ業務の時間を他職員に周知する等、必要な条件整備を行って来ている。定期的に職員ストレスの聴取を行い適切な労働環境の維持に努めている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | ケアマネ試験や実践者研修の他、各種研修(有料研修含む)の受講も推奨する事で職員の介護力を高める取組が行えている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 同業者とのイベントは、コロナ対策の為、禁止。研修等はグループホーム単独で行い、当面は交流が望めない。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価(1階) | | 外部評価(事業所全体) | |
|-----------------------------|------|---|--|---|-------------------|--|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | ご本人との面談の時には、本人の興味の対象について耳を傾け、本人に納得・安心できる雰囲気作りを心掛けている。 | | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | ご家族が困っている事、介助支援が限界になった経緯を可能な範囲で聞き取り支援内容を共有している。ご家族の負担軽減にも配慮出来る様に努めている。 | | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 「望まれる生活の方向性」を確認。自立支援として「声掛けや促しで行なえる事」で身体機能を維持する為「出来る事の継続」を情報共有している。 | | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | ご本人と手作りおやつを作ったり食べたり、片付けを手分けをお願いしている。日々の家事分担してを行い、ご本人の役割意識・業務達成感等が利用者様の意識に定着している。 | | | |
| 19 | | ○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | ご本人とご家族様の面会は、コロナ対策の為、当面の間は禁止。面会・連絡等は電話等で行い、当面は交流が望めない。 | | | |
| 20 | 8 | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | ご本人の外出・外泊等は、病院受診以外はコロナ対策の為、禁止。外出レクリエーション等はグループホーム内でのイベントに変更。当面は交流が望めない。 | 感染症の流行前は、近所に住んでいた知人が訪ねて来る利用者もいた。家族と一緒に好きな物を食べに行ったり自宅に帰ることもあった。現在は親族から電話やハガキが届く利用者もいる。 | | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 利用者様間の見守りにて転倒防止できていたり、不穏時には話相手になる等利用者様が他者を気遣う姿もみられています。 | | | |

グループホームウェルスタイル拓北

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価(1階) | 外部評価(事業所全体) | |
|------------------------------------|------|--|--|---|--|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退去者はまだ少数ですが、ご家族からの連絡を頂いた際には、丁寧に対応。必要時は助言等をさせて頂いております。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | 9 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 利用者様との日々の関わりの中で、訴え等があれば傾聴をし、スタッフ間で情報共有を行い対応しています。 | 会話や表情、問いかけ方を工夫して利用者の思いや意向を把握している。「課題分析」に興味や嗜好を記入しているが、ユニットごとに記入内容にばらつきがあるので記載を統一したいと考えている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入所されて最初の期間は、ご本人に一番ストレスが係る時期です。その期間を短くする為に、ご本人の生い立ちや、昔の暮らしぶり等の情報共有。新生活開始の利用者様の不安を軽減出来る様努めています。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 日々の体調を把握しながら、活動量を職員と検討。有する力を維持できるようレクや行事への取組がしっかり行えている。 | | |
| 26 | 10 | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 利用者様との日々の関わりや毎月のカンファレンスにより、支援内容や過不足を検討しています。モニタリング等家族から聴取した情報も職員へ周知し、適切な支援を行えています。 | 6か月ごとに課題分析シートを作成し、計画作成担当者が中心になり評価を行い、本人や家族の意向を聴き取りながら介護計画の見直しを行っている。支援記録に達成度合いをチェックしているが、短期目標に沿っての記録には不十分な面もみられる。 | 「支援記録」に記載している短期目標に沿って日々の変化や課題を記入し、介護計画の見直しに活かすよう期待したい。 |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 利用者様との日々の関わりで、気づきや訴え等を情報共有。問題解決や支援内容を確認しています。家族から聴取した情報も職員へ周知し、適切な支援を行えています。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 利用者様の出来る事を継続・応用した取組を増やす。各職員のスキルUPもアクティビティで図る。少人数の寂しさがある時には、2Fとの交流を行って日常生活と異なる変化ある生活リズムを演出している。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | コロナ禍のまえば、季節毎に地域の花観賞の為に外出したり目的を持って歩けるよう取組んでいる。現在は、屋内でのイベントに切り替え企画・実行しています。 | | |
| 30 | 11 | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | ご本人・ご家族の意向を反映しかかりつけ医を選定。訪問看護師の支援を受けて、主治医や薬剤師と連絡調整等連携する事が出来ている。 | 協力医療機関や皮膚科の往診を受ける利用者があり、往診記録を個別に記録している。家族と専門医を受診する時はバイタル測定のみを渡している。その際の受診記録も時系列に分かりやすく整備したいと考えている。 | |

グループホームウェルスタイル拓北

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価(1階) | 外部評価(事業所全体) | |
|----------------------------------|------|--|---|---|---|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 31 | | ○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 平日の朝のバイタルや変化を、訪問看護師に伝え専門職の見地に対応して頂いております。介護職で行える処置を看護師の指示を受け実施。相互連携にて早期に利用者対応を行えています。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 訪問看護師の支援を受けて、早急に入院時情報提供を作成し病院へ提出すると共に退院が可能な時期には、本人面談及び担当看護師からの聴取を行っている。 | | |
| 33 | 12 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | ご利用者様の介護度増加時に、ご家族様の意向を確認。グループホームでの生活支援の時期を慎重に協議。柔軟に対応させて頂いております。 | 「重度化に関する指針」に沿って利用開始時に事業所としての方針を説明している。体調変化に応じて主治医の判断の下、家族と方針を話し合い入院先などを紹介している。現状として、事業所での看取りが難しいことも事前に説明している。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | ご利用者様の急変に備え、常日頃から職員間の役割分担や手順を確認している。落ち着いて行えるよう定期的にシミュレーションを行っております。 | | |
| 35 | 13 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 夜勤時の避難方法を近隣に住む住民の皆様から協力を得られる体制作り。消防訓練・避難訓練を近隣住人にも参加して頂ける様に企画・実行に努めます。 | 今年度は、日中の火災を想定した自主訓練を2回実施している。危険箇所の確認を行っているが、ケア別対応の話し合いや食料品以外の備蓄は不十分である。避難訓練に地域住民は参加していない。救急救命講習は計画的に進める意向である。 | 地域との協力体制を整え、避難訓練への参加を依頼するよう期待したい。ケア別の対応について話し合い、マニュアルに綴るよう期待したい。また、食料品以外の備蓄品も整備するよう期待したい。 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | 14 | ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | ご利用者様との親交も大切ですが、接遇面で人格の尊重に配慮しております。呼名も本人の意向を尊重、名字や下の名前で呼び、あだ名等は禁止している。 | 利用者の呼びかけは苗字に「さん」づけを基本とし、接遇研修を行って適切な対応を学んでいる。申し送りはイニシャルを使って行い、利用者に分からないようにしている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | ご本人の決定権を尊重しており、「どっちがいいですか?」「〇〇はいかがでしょうか。」等の声掛けをさせて頂いております。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | スタッフは必要最小人数での支援をさせて頂いております。全件の個別対応は難しいのですが、可能な範囲でご要望に添えるよう努めております。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | ご利用者様には、季節にあった衣服を身に付けて頂けるように、職員が選択を促す声掛けを行っております。清潔が保てるよう配慮しております。 | | |

グループホームウェルスタイル拓北

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価(1階) | 外部評価(事業所全体) | |
|------|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 40 | 15 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている | ご利用者と職員が手作りおやつと一緒に楽しむ事ができている。片付けや準備も利用者が自発的にできるようにしている。 | ご飯とみそ汁を事業所で作り、法人の献立により、副食が提供されている。利用者がピザやお好み焼き、白玉団子などを作ることもある。一部の職員と一緒に検食することも検討している。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事提供時は見守り、食事・水分量の把握。個々の食習慣に対応して支援を行っている。水分量不足する利用者様には、ゼリー等を提供し脱水症状にならないよう配慮しています。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | ご利用者へは自立支援の原則から、出来る事を継続して頂いております。食後の口腔ケアを促し、ご自身で困難な利用者は義歯管理を代行しております。 | | |
| 43 | 16 | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | ご利用者様の尊厳に配慮した、支援を心掛けています。定期的なトイレ誘導・尿量にあった適切なパットを使用。下着の上げ下げ等出来る行為を継続して頂き、不足部分を支援出来ています。 | 全員の排泄状況を記録し、個々の排泄間隔に合わせて声かけしている。見守りを中心とした支援を行って自立を促しており、失禁が少なくなった事例もある。夜間もトイレでの排泄を基本に、ポータブルトイレを利用する利用者もいる。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | ご利用者様の水分・食物繊維の摂取を促すと共に腸の動きを活発にする為の運動に参加してもらえよう支援している。排便コントロールを医療機関と連携して指示により、薬剤の提供を行っている。 | | |
| 45 | 17 | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 入浴については、バイタル測定・本人の意向を確認して楽しんで頂いております。入浴日変更等を柔軟に行い皮膚トラブルを予防。湯温や湯船に入っている時間等、利用者様毎に配慮している。 | 日曜日以外の、主に午前の時間帯で各利用者が週2~3回入浴している。広い浴室で手すりがあり、入浴剤の使用や一人ひとりのお湯の入れ替えにより、気持ちよく入浴できるようにしている。同性介助の希望にも対応している。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | ご利用者様毎の生活リズムに配慮して、活動と休息のバランスをとり、メリハリある生活を送れる様に支援している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | ご利用者様の薬剤準備を複数の職員でダブルチェック。医師・看護師との連携で必要な薬を適切に内服できるよう見守り、服薬介助を行っております。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 成果として、残る作品作りの効果・効用をユニット間の職員で情報共有。運営推進委員会等で展示出来て、利用者様とご家族様の笑顔が輝いておりました。 | | |

グループホームウェルスタイル拓北

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価(1階) | 外部評価(事業所全体) | |
|------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 49 | 18 | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | コロナ対策で外出レクリエーションは屋内に転換実施。近隣住人との接触が出来ない。回転ずし・カラオケ・散歩を兼ねた、おやつのお買い物は当面実施が困難。屋内で可能な企画を職員の創意工夫で実施しています。 | 感染症の流行前は事業所周辺の散歩、農家の直売所やスーパーマーケットへの買い物、喫茶店などに日常的に出かけ、行事ではカラオケやバラ園、百合が原公園に行き楽しんでた。感染症収束後は再開したいと考えている。 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | ご本人とご家族様の意向に沿い、コロナ禍以前は現金所持・支払の見守りを行っていました。現在は預り金での買物代行で対応。ご理解を頂いております。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | コロナ禍で面会が困難な為、電話による交流が増加。ご自身で電話をかける事は難しいので、ご家族様から連絡をして頂き居室にて会話を楽しんで頂いております。手紙はまだやり取り出来てません。 | | |
| 52 | 19 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 心地よい空間作りの為、季節毎の行事や遊び心に着目計画し、創作活動で完成した作品を掲示している。居室の調光照明で適切な明るさに設定しています。 | 共用空間は広く、中央に食堂、居間、キッチンがあり、両側に居室が配置されている。窓が大きく全体が明るい。壁には利用者の作った季節の装飾がある。トイレや浴室も広く清潔である。光触媒を使った空気清浄機を設置し、ウィルス対策を行っている。温度や明るさを適切に調整している。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 食卓テーブル席とソファー席、それぞれお好みの場所にて過ごされています。広い空間の為、居場所の定まらない利用者はキッチンカウンターで職員と会話して過ごす事が出来ています。 | | |
| 54 | 20 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | ご利用者様の意向に配慮して、馴染みのある調度品(テーブル/ダンス等)を持ち込み頂いている。ご自分の落ち着ける空間にする為、写真や人形等を飾り穏やかに過ごして頂いております。 | 居室には備え付けのベッド、キャビネットがあり、テレビや家族の写真のほか、使い慣れた机、椅子、ダンスなどを自由に持ち込んでいる。壁には時計やカレンダーなどを飾っている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 壁には手すりを設置、転倒予防して移動する事が可能。トイレや浴室は色分け、視覚で認識出来るよう工夫。居室入り口には、ご利用者様の固有の飾りを目印を付けて迷う回数が減少出来る工夫をしています。 | | |

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|---------------------|------------|-----------|
| 事業所番号 | 0190201574 | | |
| 法人名 | 株式会社 フロンティア | | |
| 事業所名 | グループホームウェルスタイル拓北 2階 | | |
| 所在地 | 札幌市北区拓北8条3丁目1-8 | | |
| 自己評価作成日 | 令和3年3月8日 | 評価結果市町村受理日 | 令和3年3月30日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

| |
|---|
| <p>* 栄養バランスを考慮した食事提供の為、調理を専門業社に委託。そのかわりに入居者様と(週/3回)手作りおやつをスタッフと作り美味しい物を食べて笑顔の時間を皆様と共有出来ています。</p> <p>* 眠りSCAN(パラマウンド社製)を居室に設置。入居者様の睡眠状況の記録と状態把握。適切なタイミングで体交やトイレ誘導が実現できている。ご家族様もデータを示して情報を受け状況把握ができています。</p> <p>* 法人内の福祉用具を無償で入居者様に提供行っている。</p> |
|---|

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

| | |
|-------------|---|
| 基本情報リンク先URL | https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0190201574-00&ServiceCd=320&Type=search |
|-------------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|-----------------------|
| 評価機関名 | 株式会社 サンシャイン |
| 所在地 | 札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F |
| 訪問調査日 | 令和3年3月8日 |

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

| |
|--|
| |
|--|

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|----|--|----|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) |
| 57 | 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | 66 | 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12) |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | | |

自己評価及び外部評価結果

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価(2階) | 外部評価 | |
|-------------------|------|--|--|------|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I.理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | 1 | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 理念:人と心を大切にする。理念を基に、入居者様の自立支援の為にケアサービスをさせて頂いています。 | | |
| 2 | 2 | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 地域開催のイベントや事業所主催のイベントで地域交流を行っています。気軽に訪問して頂けるよう心掛けています。(コロナ禍で中止しています。) | | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 事業所主催のイベント時に、医療・看護の相談コーナーを設けて地域貢献に努めています。(コロナ禍で中止しています。) | | |
| 4 | 3 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議を定期的開催。入居者のご家族様や地域包括支援センターのケアマネージャーからご意見や助言を頂きサービス向上に反映させて頂いています。(コロナ禍で中止しています。) | | |
| 5 | 4 | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 区役所及び本庁舎の関連部署や地域包括支援センターの担当者様に相談や助言を頂き業務を行えています。 | | |
| 6 | 5 | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 社内及び外部研修に参加して知識や技能向上に努めています。ポイントをメモして、拘束にならないケアを実践。 | | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 勉強会及び外部研修に参加してスタッフ間での情報共有。お互いのスキルアップを実践。ポイントをメモして虐待防止に努めています。(コロナ禍で時間短縮しています。) | | |

グループホームウェルスタイル拓北

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価(2階) | 外部評価 | |
|------|------|--|---|------|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 社内及び外部研修に参加して、スタッフ間での相互理解・スキルアップに努めています。ポイントをメモして入居者様の権利を保護する生活を支援しています。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約書締結時に、文章の理解向上の為に補足説明等を丁寧に行っています。不安な点を傾聴して不明な点は調査して回答。 | | |
| 10 | 6 | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 運営推進会議を定期的開催。入居者様・ご家族様・地域包括センターの担当者様に助言を頂きサービス向上に反映させて頂いております。(コロナ禍で中止しています。) | | |
| 11 | 7 | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 業務改善の意見や外部研修への参加要望に丁寧に対応して頂いている。意見等を言いやすい環境作りを頂いています。(コロナ禍で中止しています。) | | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 全体会議での業務改善やサービス内容の見直しについて評価や対策に早期対応して頂いている。現状の把握と将来の見込みの説明も頂いている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 個人の自己研鑽への声掛けや研修機会に向けた案内を頂いている。メンタル面にも配慮して頂いている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 法人内の系列同業者や異業者間で研修や勉強会を開催。相互理解やチームケア促進に役立てられている。(コロナ禍で中止しています。) | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価(2階) | | 外部評価 | |
|-----------------------------|------|---|---|--|------|-------------------|
| | | | 実施状況 | | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | インテーク面談時に、ご本人とご家族の希望と課題を傾聴。可能な限りご本人には実際に来所し職員・施設環境の雰囲気を実感して頂いている。 | | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | ご本人とご家族様に実際に施設訪問をして頂いて入居希望を確認。グループホームは、普通の家とおなじ空気や時間の流れの生活空間である事を理解頂き不足部分を支援。 | | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | ご本人とご家族様の望む生活を把握。将来像を確認。障害されている原因を見極めて必要な社会資源の提案とサービス考案して選択頂く。 | | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | ご本人の自立した独自のリズムで生活を継続できるように不足部分の支援をさせて頂いています。身体機能維持の為にできることを継続して頂いている。 | | | |
| 19 | | ○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | ご本人とご家族様を支援する為に、生活歴を情報共有化してチームケアにてご本人の望む生活を支援。 | | | |
| 20 | 8 | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 同上。グループホームにも気軽に訪問して頂き親交を深めて頂ける様に努めています。 | | | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | グループホームは、普通の家とおなじ空気や時間の流れの生活空間である事を認識して頂く努力を継続。入居者様の生活リズムで暮らして頂く。食事や体操・アクティビティ・外出レクでの親交を深めて頂いている。 | | | |

グループホームウェルスタイル拓北

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価(2階) | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|------|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退去された方のご家族様からの問合せや相談に対応しております。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | 9 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | インテーク時に確認。ご本人の状態件かやご家族様の意向に対応。毎月のカンファレンスでスタッフ間の情報共有。サービス反映。 | | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入居者様毎に、生活スタイルは異なる為、カンファレンスで情報共有化を行っている。状態変化に対してサービス内容を工夫。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 同上。入居者様の身体残存能力の維持・QOL向上。 | | |
| 26 | 10 | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 同上。状態変化に対応したサービス内容の変更を考案でご本人とご家族様に了承を頂き支援。 | | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 同上。日々の申し送りや毎月のカンファレンスにてチームケアをさせて頂いています。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | ご本様の近況はグループホーム発行の拓北通信で毎月ご家族様に報告。ご家族様も気軽に来所され情報交換させて頂いている。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 百合が原公園やロイズガーデン等に外出レクを企画・実行。入居者様同士で親交を深められています。(コロナ禍で中止しています。) | | |
| 30 | 11 | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | グループホームで提携している内科医や歯科医・皮膚科や薬剤師のご協力が入居者様の特変時に早期対応ができています。 | | |

グループホームウェルスタイル拓北

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価(2階) | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|------|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 31 | | ○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 訪問看護師は、平日の午前中に入居者の状態観察等をして頂いている。細部に渡り献身的に対応して頂いている。メンタルケアもして下さっている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入居者の急変時のマニュアル整備。実働を通してスタッフ間の冷静な対応が出来ている。振り返りを行い対応力が向上。入退院時の医療機関への訪問・情報共有。(コロナ禍で電話・FAX対応しています。) | | |
| 33 | 12 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 看取り体制は今後の課題として、契約時に説明させて頂いています。重度化については、ご家族様と都度の打ち合わせ方針の確認。支援を行っています。 | | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 社内研修や外部研修、各自の勉強を段階的に行っている。急変時に冷静に対応できるようスキルアップを図る。 | | |
| 35 | 13 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 同上。避難訓練は行っているが、町内会を含む体制作り等は作成中です。 | | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | 14 | ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 理念:人と心を大切に。理念を基に日々の入居者様毎の生活リズムで不足部分を支援させて頂いてる。 | | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 同上。何でも表現できる雰囲気作りに職員一同が努めており可能な事は実現できている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 同上。入居者様毎の生活リズムに対応して要望を尊重した支援をさせて頂いています。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 訪問理美容の業者様の協力で身だしなみやおしゃれを支援できています。 | | |

グループホームウェルスタイル拓北

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価(2階) | 外部評価 | |
|------|------|---|---|------|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 40 | 15 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている | 食後の片付け(器の拭き上げ・テーブル拭き)等を体調の良い入居者様が申し出て手伝って下さっている。 | | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 栄養バランスの取れて食事を業者さんの協力で提供できている。水分摂取量の個別対応。不足時は増回。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後の口腔ケアは習慣となり拒否なく行えている。出来ることを継続して頂いている。 | | |
| 43 | 16 | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | トイレの定時誘導や見守り・不足部分の支援は、ご本人の意向を尊重して支援できています。 | | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 医療機関や訪問看護STと連携して排便コントロール等を行えています。 | | |
| 45 | 17 | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 入浴準備から入居者様とスタッフが協力して行えています。楽しい入浴の印象が作り。入浴拒否時は、時間や翌日に変更等で対応できています。 | | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 眠りSCANを活用し入眠状況を確認して体交やトイレ誘導が適切に実施できている。ご家族様もデータ確認。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 薬剤師や訪問看護師の支援を受けて入居者様毎に適切な内服ができている。薬の飲み込みを確認。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 入居者毎の役割分担が自然とできておりお互いを気遣う関係を築けています。アクティビティへの参加は自由で強制なし。 | | |

グループホームウェルスタイル拓北

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価(2階) | 外部評価 | |
|------|------|--|---|------|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 49 | 18 | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | スタッフの人員不足等の問題で個別希望に対して戸外へのお出かけ支援はできていません。毎月のレクレーションをk計画・実行・振り返り。 | | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 定期的にセブンイレブンの訪問販売に協力して頂いている。入居者様と近隣のスーパーに買い物同行させて頂いている。(コロナ禍で中止しています。) | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | ご本人またはご家族様からの申し出により電話を掛けたり、取次を行っています。 | | |
| 52 | 19 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居住空間の間取りや内装の色彩は、法人が設計段階から配慮しており居住者や見学者から好評です。入居者様の作品等を展示して達成感を共有できています。 | | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 居室とフロア(共有スペースをご自分の生活リズムで往復され穏やかに過ごして頂いている。 | | |
| 54 | 20 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | ご本人とご家族様の打ち合わせで居室毎に居心地のよい家具の配置をされている。 | | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 住環境は、照明・トイレ・浴室等の表示や色分けで視覚にて判断しやすい工夫をしています。 | | |

目標達成計画

事業所名 グループホームウェルスタイル拓北

作成日：令和 3年 3月 25日

市町村受理日：令和 3年 3月 30日

【目標達成計画】

| 優先順位 | 項目番号 | 現状における問題点、課題 | 目標 | 目標達成に向けた具体的な取り組み内容 | 目標達成に要する期間 |
|------|------|---|---|--|------------|
| 1 | 1 | 運営理念を基にサービス提供を行っていますが、事業所としての理念を共有する。 | 企業理念を基にスタッフで話し合い、地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を作成して、利用者様の支援を行う。 | 事業所理念については、企業理念を基にスタッフで話し合う。地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所の独自の理念を作成。定期的にスタッフ全員で確認。利用者様の支援に努めます。 | 3か月 |
| 2 | 4 | 運営推進会議の際、町内会の役員の方に参加して頂けていない。コロナ禍の為、書面での事業所からの報告がメインとなっている。 | 運営推進会議の内容を、事業所からの報告以外の介護・医療のお役立ち情報を、盛り込み町内会の役員の参加を実現する。 | 地域住民の方々との交流促進の為、運営推進会議を活かした取り組みを行う。地域住民に役立つ情報(テーマを決めて)会議案内を町内会役員に持参して、会議への参加を依頼。書面での会議報告書にも工夫を行い、地域住民との交流活性化を図ります。 | 6か月 |
| 3 | 26 | 6ヶ月ごとに課題分析シートを作成し、計画作成担当者が中心となり評価を行って、本人や家族の意向を聴き取りながら介護計画の見直しを行っている。支援記録に達成度チェックしているが、短期目標に沿っての記録には不十分な面も見られる。 | ご本人がより良い暮らしを継続できるように家族の意向を聴き取りながら介護計画の見直しを行っている。短期目標に沿っての支援記録を工夫・現状に留意して支援を行っていく。 | 業務改善として、「支援記録」と短期目標のマッチング。あり方を工夫、介護計画への反映が容易になるように、取り組んでいきます。 | 6か月 |
| 4 | 35 | 今年度は、日中を想定した自主訓練を2回実施している。危険箇所の確認を行っているが、ケア別対応の話し合いや食料品・水以外の備品は不十分である。避難訓練には地域住民は参加していない。救急救命講習は、計画的に進める意向である。 | 災害対策の定期的な訓練を継続。食料品・水以外の備品の備蓄を行う。避難訓練に地域住民の方々に参加して頂ける様に依頼していく。 | 災害対策の対応として、地域住民の方々の訓練参加を依頼。冬季間の防寒用品等の備蓄品の整備。救急救命訓練は、計画的に進めて参ります。 | 12か月 |
| 5 | | | | | |

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。